

【国語】 <中学校 第2学年>

1 結果のポイント

- 「話すこと・聞くこと」については、話し手の立場を理解しながら内容を正しく聞く力をみる問題など、多くの問題の正答率が80%を上回っている。
- 他方、話し手の説明の工夫を正しく聞く力をみる問題の正答率は60%を下回っている。
- 「書くこと」については、資料から分かることを主述が整った文で書く力をみる問題の正答率は80%程度である。
- 他方、自分の考えを具体例や体験を根拠にして書く力をみる問題の正答率は60%程度である。
- 「読むこと」については、文章中の語句の意味を正しく理解しながら読む力、指示語が示す内容を正しく理解しながら読む力をみる問題など、多くの正答率が80%程度である。
- 他方、文章の要旨を正しく理解しながら読む力をみる問題の正答率は70%を下回っている。
- 「言語事項」については、中学校第2学年までに学習した漢字を正しく読む力、ことわざや古文の歴史的仮名遣いを正しく理解している力をみる問題など、多くの問題の正答率が80%を上回っている。
- 他方、小学校で学習した漢字を正しく書く力、慣用的な表現を正しく使う力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものがある。

2 結果の分析

(1) 話し手の立場を理解しながら、話の内容を正しく聞く力をみる問題の例（「聞く能力」）

<問題> 四の四

- 四 小林さんは、「言葉遣いの乱れ」について最終的にどのような意見をお持ちでしたか。最も適切なものをア～エの中から一つ選び、符号で書きなさい。
- ア 言葉遣いの乱れをなくすために、いつでも、どこでも、誰とでも正しい言葉遣いをすることが大切だ。
 - イ 場所や場面をわきまえて若者言葉を使い、相手に失礼にならないように注意することが大切だ。
 - ウ 若者言葉には地域性があるので、地域ごとにどうしたらよいか考えることが大切だ。
 - エ 身近なところで言葉遣いの乱れがあることがわかったので、もっと他の地域を調べることが大切だ。

<結果> 正答率 95.5% (正答…ア)

<分析>

この設問は、発表の事実と意見とを聞き分け、発表者の立場や意見を考えながら話の内容を聞く力をみる問題である。「私は、この調査を通して…」という表現から、これまでの調査をまとめていること、文末の表現で他の部分が「～感じました。」「～高いそうです。」等であるのに対して、「～大切だと考えました。」となっていることから、最終的な意見であることを聞き分けることができたと考えられる。昨年度の類似問題も同様に正答率が高く、事実と意見とを聞き分け、発表者の立場や意見を考えながら話の内容を聞く力は十分身に付いていると考えられる。

(2) 資料をもとに自分の感想や考えをもち、具体的な例や体験を根拠にして、決められた字数で書く力をみる問題の例（「書く能力」）

<問題> 四の二

- 二 このグラフからわかることについて、あなた自身の感想や考えを書きなさい。段落構成は二段落構成とし、第一段落ではあなた自身の感想や考え、第二段落ではその根拠を具体的な例や体験を交えて書きなさい。ただし、次の（条件）に従うこと。
- （条件）
- ①題名や氏名は書かないこと。

- ②書き出しや段落の初めは一字下げること。
- ③解答欄に合わせ、五行以上七行以内で書くこと。

<結果> 正答率 63.2%

<分析>

この設問は、「一ヶ月の読書量」についての資料を見て、自分の感想や考えをもち、具体的な例や体験を根拠にして決められた字数で書く力をみる問題である。解答欄に記述した生徒は93%程度であり、資料から分かることを表現しようとする意欲がみられた。誤答は、「第一段落は感想や考えを書き、第二段落はその根拠を具体的な例や体験を交えて書く」という設問の条件について、適切に書けていないものが多かった。特に根拠については、意見を重ねて書いたり、事実を書くにとどめていたりする解答が多く、意見と根拠を筋道立てて書く力が十分身に付いていないと考えられる。これは昨年度の傾向と同じであり、書く力を高めていくための一層の改善が必要であると考えられる。

(3) 文章における語句の意味を正しく理解しながら読む力をみる問題の例（「読む能力」）

<問題> ㊦の一

- 一 (1) 歴史的事実 とありますが、筆者が用いているこの語句の意味を説明した、次の文の()に入る七字の言葉を本文中から抜き出さない。

かつて繁栄した世界の四大文明は、(七字)たことによって衰退し、砂漠になってしまったという事実。

<結果> 正答率 81.2% (正答…森林を荒廃させ)

<分析>

この設問は、文章における語句の意味を正しく理解しながら読む力をみる問題である。問題文を読みながら、「世界の四大文明」が「～たことによって衰退」したこと＝「歴史的事実」であると読み取り、どのようなことによって衰退したのかを考えることで「森林を荒廃させ」という言葉を見い出すことができたと考えられる。言葉と言葉をつないで、文章における語句の意味を正しく理解しながら文章を読む力が身に付いていると考えられる。

(4) 小学校で学習した漢字を正しく書く力をみる問題の例（「言語に関する知識・理解・技能」）

<問題> ㊦の一の6、9

- 一 次の1～10の文中の——線部について、漢字は平仮名に、カタカナは漢字に直して書きなさい。
- 6 キチョウな存在である。
- 9 議長をツトめる。

<結果> 正答率 6…75.9% (正答…貴重) 9…51.4% (正答…務)

<分析>

この設問は、小学校で学習した漢字を正しく書く力をみる問題である。正答率が最も高かったのは6であるが、無解答が14.2%あった。正答率が低かった9の誤答は、「努」「勤」等の同訓異字、無解答の割合が高かった。また、画数の多い漢字の設問では正確に書けない、無解答が多いという傾向がみられた。特に、正答率の低かった「務める」「看病」については、日常生活の中でも使用する漢字なので、日頃から漢字で表記することを指導したい。例えば表意文字である漢字の特性を踏まえて意味を調べたり、同音異字、同訓異字など他の漢字と比較したりしながら指導することが必要である。今後も、継続して指導することを大切にしたい。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」については、特に、話し手の説明の工夫を正しく聞く力を高める必要がある。そのために、指導事項のウ（語句や文）にかかわる単元に重点を置く必要がある。さらに、単元を構成する際、目的を達成するための話し方の工夫について評価の視点を定め、相互に評価し合う場を設けるなど、意図的な働きかけを明確にした単元指導計画となるよう工夫改善することが重要である。
- ・「書くこと」については、特に、自分の考えについて具体的な例や体験を根拠にして書く力を高める必要がある。そのために、作成した年間指導計画に指導事項のエ（記述）の内容が適切に位置付けられているかを確かめるとともに、他の領域でも継続的に指導することによって、論理的に書き表す力を確かに身に付けられるよう、年間を見通した指導をすることが重要である。
- ・「読むこと」については、特に、文章の要旨を正しく理解しながら読む力を高める必要がある。そのために、年間指導計画で指導事項のイが位置付けられた単元で、意図的に指導時間を設定する必要がある。また、第1学年の指導事項イ（内容把握や要約）と、第2学年及び第3学年の指導事項イ（構成や展開）の関連を考えて単元を構成するなど、学年の発達段階を考慮して、文章を要約する力や、要旨を理解する力を系統的に指導することが重要である。

(2) 指導方法の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」については、指導事項のウ（語句や文）に重点を置く指導が必要である。そのために、スピーチメモや聞き取りメモを活用していくことが大切である。また普段の授業の発言の中でも、「内容や意図に応じた説得力のある表現」等に意識して聞くことができるよう、指導を積み重ねていくことが必要である。そのために、評価項目を明確にし、ビデオやテープ等で自分の活動の様子を振り返ったり、相互評価を用いて聞き手からの声を生かしたりするなどの指導方法の工夫が必要である。
- ・「書くこと」については、自分の立場を明らかにし、その根拠を自分の体験や一般的な事実などから見付け、筋道立てて文章を書くように指導することが重要である。その際に、メモやカード、構成表等を活用して、接続する語句や文末などの表現に留意し、文章全体を見通して考えられるよう工夫する。また筋道立てて書くための工夫に気付かせるための文例を提示することも有効である。中学校第1学年で学習する内容も踏まえ、繰り返し指導する中で、一人一人の生徒に確実に力が身に付いているかを、きめ細かく見届けていく指導が大切である。
- ・「読むこと」の指導については、部分や場面に分けた詳細な読み取りに終始することなく、作品全体を通して、どのような表現に着目させるのかに配慮し、部分と全体を関連付けてとらえさせることが大切である。また、他の領域に生かすことができる表現を明確にして、「読むこと」で培った力が「話すこと・聞くこと」や「書くこと」において生かせるよう指導することが大切である。さらに文章を読む場合には、「筆者は何を伝えたいのか」という要約をしたり要旨をつかんだりする力を身に付けていくことにも配慮する必要がある。
- ・「言語事項」の指導については、各領域の学習に役立てるための基礎的な事項として生徒に意識させるとともに、日常生活に生かしていく力や、実際の活動場面において運用できる力を高める指導を大切にす。特に漢字の力については、書写の指導とも関連させて、意図的・計画的に繰り返し学習させる必要がある。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・辞書類の活用や、学習した漢字を文章中で使うことなどを習慣化させるとともに、教室の掲示物の文字等にも配慮して言語環境を整えることが大切である。また、生徒が主体的に資料を活用し情報活用能力を高められるよう、図書館の計画的な活用に努める必要がある。
- ・国語科で身に付けた力が他の教科、領域等でも発揮できるように配慮することが大切である。また、教師自身が「話し方」「聞き方」「話し合い方」「書き方」等の模範を示し、生徒の国語に対する興味・関心を高め、国語を尊重する学習集団を育成するよう留意する。